

～古道を歩く楽しみ方～



1882年
迅速図
木更津村

1 江戸時代から残る道を探してみよう。

明治10年代の地図（迅速図）上の道路網は、ほぼ江戸時代のものと同じです。みなさんが住んでいる地域の迅速図と現在の地形図を対比させて、古くから残る道を探してみましょう。そして実際に歩いてみましょう。

2 歴史を探る手がかりはどこにあるでしょう。

お地蔵さんや道しるべをはじめ、様々な石造物がかつての村境や古道の分岐点、寺社の門前や境内などに建てられています。大半の石造物には、年号や干支（えと）*などを加えた年月日、人名・地名などが刻まれています。（銘文）銘文は、読み取りにくい部分もありますが、じっと見ていくうちに、思わぬ人物や事件などに会うことがあります。

*用語解説）[干支]十干と十二支を組み合わせ、年月を表すために使った。

3 お年寄りに話を聞いてみましょう。

身近な大人やお年寄りに、その土地に伝わる伝承や地域独特の地名などの話を聞いてみると、ふるさとの歴史を理解する重要な手がかりが得られます。

◎事例① 木更津市吾妻の道標「安政五戊午年」建立

安政5（1858）年で分かるように、ペリー来航・開国後に建てられた道しるべです。銘文「東都小網三艾問屋釜屋治左エ門建之」より、江戸の艾（もぐさ）問屋の釜屋が建てたものです。江戸と木更津を行き来した木更津船（五大力船）の発着所が、日本橋川にかかる江戸橋そばの「木更津河岸」にありました。



◎事例② 「かまくら道」の道標と小字

木更津市中鳥田の古道三叉路にある江戸期の道しるべです。西上総地域で「かまくら道」と刻まれた唯一のもので、房総から鎌倉へと向かう途上にあったものと思われます。かつて海に面していた木更津市貝渕には、「渡海面」という地名が残っています。また、北上して袖ヶ浦・市原方面に向かうと、あちこちに「鎌倉街道」「鎌倉通」などの地名や源頼朝にちなんだ言い伝えが点々と残っています。

古道を歩く手がかりとなる小字*名～鎌倉道の場合～

- 木更津市【貝渕】渡海面
- 袖ヶ浦市【野田】鎌倉街道 【蔵波】鎌倉街道 【川原井】鎌倉通
- 市原市【立野】鎌倉街道 【中高根】大街道



*用語解説）[字]町村内の区画のこと。大字と小字があり、小字を単に字とも言う。